太宰府の文華
～資料室だより㊸～

～「石坂さえ除かれにけり」――大正時代の道路整備事業～

以前は九州歴史資料館があった場所――今は駐車場となっていますが――の向かいにある湯の谷公園、その一角に生える樹木の傍らに、石碑が立っているのをご存じでしょうか。近寄ると、漢字がびっしり刻まれているのがわかります。おしまいの方に「大正七年七月建之」とあり、太宰府町長古川勝隆(在期大正元～9年)による撰文を、太宰府の絵師・吉嗣鼓山(よしつぐこざん)が書したことが記されています。この石碑は、すぐ背後を通る道路(県道75号)が大正5(1916)年に竣工したことを記念して建てられたものです。

太宰府から原の方面へ抜けようとしたとき、筑紫女学園大学の付近からきついカーブと勾配が現れます。この辺りは石坂峠と呼ばれた難所、昔はゴツゴツとした岩石が転がり、峠を越えようとする人や車馬の通行を大いに妨げていました。碑文によると、太宰府町が専ら任じ、岩石を拓くこと約1.6キロ、おかげで険しかった坂道はまるで砥いだように平坦になりました。町制施行61周年記念誌『太宰府』(昭和29年)には、この事業を「『石坂さえ除かれにけり』と評し得て本町多年の宿望を達し一大幸福と云ふべし」と絶賛する記述が見え、道路更正工事に対する町の自負が読み取れます。実は太宰府町には、明治20年代に馬場池ノ端から原に抜けるトンネルを完成させたものの、それがわずか10年で崩落してしまった、という痛い経験もあったのです。また、石坂峠の〝攻略〟は、地元の長年の願いであった、太宰府から飯塚に至る道路の開通成就にも連なることでした。

大正7年には、北谷を通り宇美に通じる只越道路(県道35号)や御笠川に架かる三浦橋(宰府五丁目)が完成しており、この時期、太宰府町では比較的大規模な道路整備事業が積極的に展開されたことがわかります。ところで道路の発達は、自動車の乗り入れも可能にします。太宰府地域でも、自動車の往来を割と目にする時代が到来するのも、そう遠いことではなかったことと思われます。

市史資料室　藤田　理子